



LOOKING BACK, WITH SURPRISE

『アプレントイス：ドナルド・トランプの創り方』監督

アリ・アッバシ

超話題作で描く「トランプがトランプたる理由」とは？

2024年11月に行われた米大統領選にて、ドナルド・トランプ氏が対立候補カマラ・ハリス氏を破り、2020年にジョー・バイデン氏に敗れて追われた米大統領の座に再び咲くこととなった。敗北経験のある候補が再び大統領に就くのは、19世紀のグローバー・クリーブランド以来で、また有罪判決を受けて出馬した候補が勝利するのは、史上初である。こうした異例の足跡をたどるドナルド・トランプという人物はいかにして創られたのか、CNNが話題の映画『アプレントイス：ドナルド・トランプの創り方』のアリ・アッバシ監督に話を聞いた。



インタビュー

クリスティアン・アマンプール

イラン人の父と英国人の母を持つ。生まれはロンドンだが、幼少期はテヘランで過ごした。英国でジャーナリズム養成講座を修了。渡米し、ロードアイランド大学でジャーナリズムを専攻し、首席で卒業。1983年、CNNに入社。数々の紛争地帯で現地取材を行い、ジャーナリストとして高い評価を得ている。2021年に卵巣がんで卵巣の摘出手術を行ったことを発表。現在も第一線で活躍する。

ゲスト

アリ・アッバシ

映画監督、脚本家。2002年ヨーロッパへ移住、2007年にスウェーデンで建築学の修士号を取得。その後、デンマーク国立映画学校で学び、2011年に短編映画「M for Markus」により学位取得。初の長編映画「Shelley」(2016年)はベルリン国際映画祭で初公開され、注目を集めた。2018年の「Border」ではカンヌ映画祭「ある視点」部門で最高賞を受賞し、世界的な評価を確立。1981年、イラン生まれ。



Listening Quiz

59 なぜトランプの映画を作りたいかったのか？

Christiane Amanpour We are going to talk about your film *The Apprentice*, which is a movie, but it's also become a political minefield. So, first and foremost, it is the story of Donald Trump's beginnings, way before he had the presidency in his eye. It takes place between 1973 and 1986. Why did you want to do this movie?

Ali Abbasi Everyone has an opinion about him, right? Everyone thinks that they know him. He's a very polarizing figure. And it's really exciting to, sort of, dive back and say, "Oh, he was not the person you think he was, and he'd gone through, sort of, a major transformation" and look at that, sort of, colorful '70s and '80s New York with these larger-than-life characters. But also, as someone...you know, as an outsider to American society, that's my chance to look at the power structure of America, the legal structure, and the, sort of, social Darwinism that has created some of these, you know.

I think he was a striver. He was someone who, sort of, as a young man wanted to become somebody, do something. He was looking for a purpose, looking for a place. And, you know, obviously, he comes from money—you know, his dad was immensely wealthy—but they were, you know, in Brooklyn and Queens, and they didn't have the, sort of, Manhattan, you know, social-life connections, and that's where he wanted to be.

The Apprentice:

「アプレントイス：ドナルド・トランプの創り方」▶映画関係者に対して、トランプ氏は「人間のクズ」とSNSにポストするなど不快感を示し、公開阻止を図って中止勧告書を送付したが、2024年10月11日、映画はアメリカで無事公開された。

political minefield:

政治的な地雷原、一触即発の政治問題

first and foremost:

何よりもまず、まず第一に

presidency:

大統領の座

polarizing:

人を対立させる、分裂させる

dive back:

過去に飛び込む

transformation:

(大きな)変化、変身、変貌

larger-than-life:

派手で人目を引く、偉大に見える、伝説的な

power structure:

権力構造

legal structure:

法体系

social Darwinism:

社会進化論 ▶ダーウィンの生物進化論を適用して社会現象を説明しようとする立場。

striver:

努力家

become somebody:

名を挙げる、ひとかどの人物になる

do something:

大きなことを成し遂げる

come from money:

裕福な家に生まれる

クリスティアン・アマンブール あなたの映画、『アプレントイス：ドナルド・トランプの創り方』について伺いたいと思います。これは映画ですが、政治的な地雷原にもなっています。まず何よりも、これはドナルド・トランプの始まりの物語ですね、大統領の座を目指すことになるずっと前の、1973年から1986年の間の出来事です。どうしてこのような映画を作ろうと思ったのですか。

アリ・アッパシ みんなトランプについては持論を持っていますよね？誰だって、彼がどんな人かわかっていると思い込んでいます。彼は賛否両論を巻き起こしがちな人物です。そして、言ってみれば、過去に飛び込んで、「いやいや、彼はあなたが考えているような人間じゃなかった。彼はいわば大変身を遂げたんだ」と伝えることはとても刺激的です。それに、伝説的なキャラクターたちが^{かっほ}闊歩していたあの華やかな70年代と80年代のニューヨークを観察することもです。同時に、アメリカ社会ではよそ者である人間として、これは私にとってチャンスでもありました、アメリカの権力構造や法体系、それに、そういった人々を作り上げている弱肉強食の社会環境とでもいうものに目を向けるためのね。

トランプは努力家だったと思います。名を挙げたい、大きな何かを成し遂げたいと望む若者でした。目標を探し求め、居場所を探し求めています。それから、言うまでもなく、彼は裕福な家の生まれです——その、父親は大金持ちでした。とはいえ、トランプ家の地元はブルックリンとクイーンズで、マンハッタン^{マンハッタン}の社交界とはつながりがありませんでした。彼が求めたのはまさしくそこでした。



『アプレントイス：ドナルド・トランプの創り方』
2025年1月17日（金）TOHOシネマズ日比谷ほか全国公開

© 2024 APPRENTICE PRODUCTIONS ONTARIO INC. / PROFILE PRODUCTIONS 2 APS / TAILORED FILMS LTD. All Rights Reserved.

配給：キノフィルムズ

STORY

20代のドナルド・トランプは危機^{ひん}に瀕していた。不動産業を営む父の会社が政府に訴えられ、破産寸前まで追い込まれていたのだ。そんな中、トランプは政財界の実力者が集まる高級クラブで、悪名高き辣腕弁護士ロイ・コーンと出会う。大統領を含む大物顧客を抱え、勝つためには人の道に外れた手段を平気で選ぶ冷酷な男だ。そんなコーンが“ナイーブなお坊ちゃん”だったトランプを気に入り、〈勝つための3つのルール〉を伝授し洗練された人物へと仕立てあげる。やがてトランプは数々の大事業を成功させ、コーンさえ思いもよらない怪物へと変貌していく……。